

1、展覧会名

春季企画展 ^{いんげんりゅうき}「隠元隆琦350年遠諱 ^{おんき} ^{おうばく}黄檗インパクト」展

2、開催趣旨

黄檗宗の宗祖・隠元隆琦の来朝は、臨済宗を中心とする禅宗寺院に大きな「インパクト」をもたらした。江戸前期の近江は、室町時代後期の戦乱により荒廃した寺院が多く、それらの再興にあたっては、黄檗僧が多く関与することとなった。特に東近江地域は、永源寺に隠元隆琦が当山し、永源寺の住持であった如雪文巖と交流したほか、蒲生郡日野町には、黄檗宗寺院が点在しているが、このことは後水尾法皇の深い帰依を受けた龍溪性潜が、正明寺など主要寺院の中興開山として迎えられたことによる。また、その龍溪が隠元を住持として迎え入れようとした妙心寺派にあっても、黄檗僧の墨蹟・絵画などが伝わり、現在でも重要な什物として位置付けられている。

そして、黄檗僧ならびに商人がもたらした中国舶来の書画は、羨望の眼差しの中で受け入れられ、多くの寺院に寄進され什物となったほか、地域の書画家に影響を与えている。そのことは、近江という地域が、京都・大阪とは異なる独自の文化を築いていたともいえる。

この展覧会は、隠元隆琦禅師 350 年遠諱にあたり、東近江地域の所縁の寺院に伝わる所蔵品を中心として、黄檗宗のもたらした「インパクト」を探るものである。

3、主催

公益財団法人日本習字教育財団 観峰館

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町136

TEL 0748-48-4141 FAX 0748-48-5475

4、協力・後援

協力；黄檗山萬福寺・栗東歴史民俗博物館

後援；滋賀県、東近江市、近江八幡市、京都新聞、中日新聞社、読売新聞大津支局、毎日新聞大津支局、NHK大津放送局

5、会場

新館特別展示室

6、会期

2022年4月16日(土)～6月12日(日) 50日間(休館日を含め57日間)

前期；4/16～5/15(休館日を含め30日)、後期；5/17～6/12(休館日を含め27日)

休館日；月曜日(祝日の場合は、翌日)

2022年度 観峰館春季企画展 概要

7、入館料（常設展示共通）

一般 500円 高校生・学生 300円 中学生以下 無料

8、関連イベント ※新型コロナウイルスの感染防止のためにより中止・延期する場合があります。

・ギャラリートーク&ミニコンサート 5月15日（日） 13:30～15:00

演奏；横山亜美（クラシックバイオリン） 定員；30名 要予約（入館料で参加できます）

・土曜講座 13:30～15:00

4月23日 「東近江地域の黄檗文化」

6月4日 「黄檗の美術～伊藤若冲を中心に～」 定員：20名 要予約（入館料で参加できます）

・アンティークオルゴール鑑賞会 4月29日（金・祝） 14時30分～15時30分

定員；30名（要予約） 参加費無料

9、展覧会構成

1st. 隠元隆琦

隠元隆琦は、京都宇治に萬福寺を開創し、その地を拠点として近江にも多くの影響を与えている。隠元の墨跡ならびに絵画作品への賛にみえる隠元の書風について考察する。

2nd. 東近江の黄檗宗寺院

東近江地域には、多くの黄檗宗寺院が点在する。ここでは、正瑞寺、小松寺、正明寺の三箇寺の所蔵品に注目し、その歴史を紐解く。

3rd. 隠元隆琦と如雪文巖

一絲文守とともに永源寺の再興に貢献した如雪文巖（1601～1671）は、隠元と積極的な交流をはかり、同寺にさまざまな黄檗文化をもたらした。

4th. 黄檗インパクト

東近江地域の臨濟宗寺院には、額字や墨跡を黄檗僧が揮毫するなど、黄檗宗は他宗派にも影響を与えている。ここでは、黄檗僧の墨跡と共に、妙心寺派の頂相を通してその影響を見ていく。

5th. 魅惑の黄檗美術

蘭溪若芝、小原慶雲など、長崎で活躍し黄檗風の絵画の優品を描いた画家の作品と、その影響を受けた葛蛇玉、伊藤若冲らの絵画作品を取り上げる。

10、展覧会担当者

公益財団法人 日本習字教育財団 観峰館

学芸員 寺前公基（てらまえ きみもと）

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町 136 TEL0748-48-4141 FAX0748-48-5475

k-teramae@nihon-shuji.or.jp

【主要出品作品】

①、隠元隆琦/賛 喜多長兵衛/画「隠元騎獅像」江戸前期 正瑞寺所蔵

隠元隆琦の頂相は、東近江地域にも数多く所蔵されているが、この作品のように獅子に坐す頂相は、隠元独自のものである。

②、重要文化財 隠元隆琦「大寂塔」万治3年(1660) 滋賀・永源寺所蔵

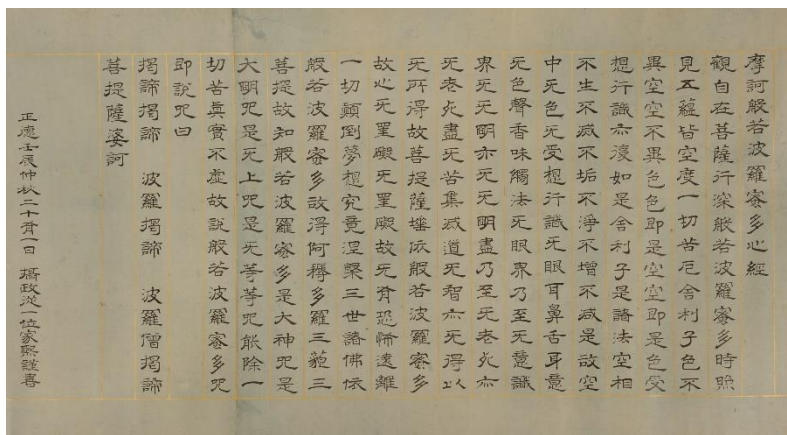
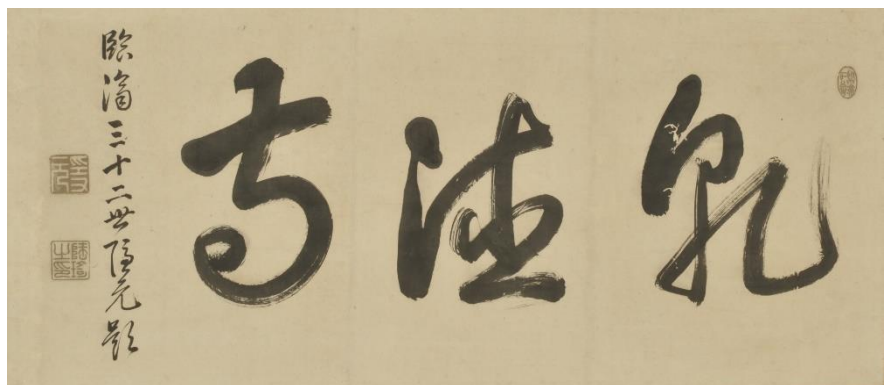
隠元隆琦は、永源寺の中興開山である如雪文巖(1601~1671)とたびたび交流している。そのため、臨濟宗永源寺派の寺院には、黄檗僧の作品が所蔵されている。隠元の書は、以降の墨跡に大きな影響を与えている。



③、隠元隆琦「乾徳寺」江戸前期 滋賀・乾徳寺所蔵

東近江市五個荘川並町にある臨濟宗妙心寺派の乾徳寺の開山である天然會通は、隠元が来日すると、いち早く隠元の元を訪れ、隠元と交流すると共に、寺号額の揮毫を依頼している。

この墨跡は、隠元の最初期のものである。



④、近衛家瀬「般若心経(装飾経)」正徳2年(1712)

滋賀・小松寺所蔵

近衛家瀬は、江戸中期の公家であり、また能書家としても知られている。また家瀬は、黄檗僧とも交流を深めており、この作品も小松寺の住持との交流の中で、同寺に寄進されたものである。

2022 年度 観峰館春季企画展 概要

⑤、伊藤若冲「瓢箪・牡丹図」のうち「牡丹図」江戸中期

京都・細見美術館所蔵



伊藤若冲（1716～1800）は、江戸中期を代表する奇想の画家として知られている。賛は無染浄善（1693～1764）が書いている。無染浄善は、若冲の絵画に最も多く賛を寄せた黄檗僧で、観峰館の在る東近江市五個荘の出身であり、里帰りの展示となる。

⑥、伊藤若冲「蒲庵浄英像」寛政7年（1795）

京都・萬福寺所蔵

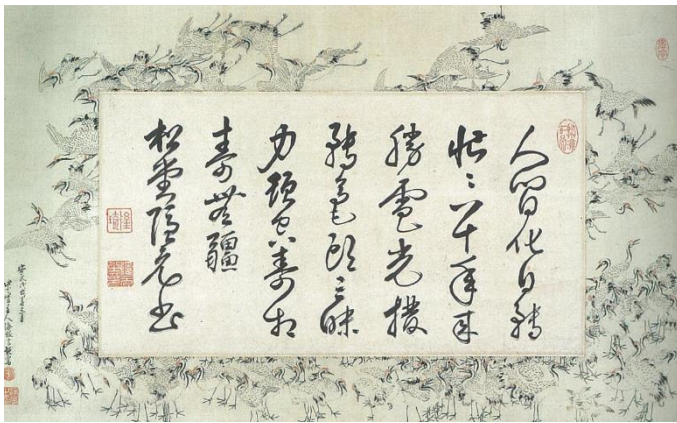
萬福寺の住持を務めた蒲庵浄英を描いたもの。若冲 82歳の作品とあるが、若冲は還暦以後、年齢を故意に加算することがあり、実際は、蒲庵浄英が歿する 80 歳時と考えられる。



⑦、隠元隆琦/書（鶴亭/画）「八十自祝偈」寛文6年（1666）

京都・萬福寺所蔵

隠元隆琦が 80 歳の時に、自らを祝う偈を揮毫したものを、後に鶴亭（海眼浄光）が表具部分に鶴の群れを描いたもの。鶴亭は、伊藤若冲等、後の画家に多大なる影響を与えた長崎派の画僧である。



⑧、葛 蛇玉「鯉魚図」江戸中期 滋賀・曹源寺所蔵

葛 蛇玉（1735～1780）は、中国の沈南蘋の流れを汲む大坂の画家で、若冲とともに黄檗絵画の延長上に位置付けられる人物である。

また、作例の稀少な画家として知られ、現在、7 作品しか確認できておらず、この作品はその 1 作品にあたる。



以上